



●色彩教材研究会オンライン講座のご案内

第5回色彩教材研究会オンライン講座を下記にて開催致します。

◆主題；「錯視と色彩」

◆日時：2022年3月19日(土)
13:30～15:00 (ZOOM)

◆講師：北岡明佳(きたおかあきよし)氏
立命館大学総合心理学部教授。

◆講演要旨：本講演では、色の錯視を検討することで、色彩を考える。通常、混色を錯視とは言わないが、並置混色であればいくらか錯視的であろうか。並置混色は加法混色だけであると考え人が多いと思うが、減法混色もあるし、それと加法混色を接続する中間的な並置混色もあることを示す。さらに、それらとムンカー錯視との関係を明らかにし、並置混色の中に加算的色変換による色の錯視(強力な色の対比の錯視あるいは色の恒常性の錯視)を実装できることを示す。

◆参加料：学会員及び研究会準会員は無料。
その他は1,000円。振込期限：3月11日(金)。振込をもって申込完了となります。

◆振込先：ゆうちょ銀行 00180-6-395882
日本色彩学会色彩教材研究会

◆申込は下記よりご登録ください。

<https://forms.gle/5XhjGZkZr5T2ecqR7> (三本)

冬の風物詩の色 冬牡丹の色・牡丹色

伝統色名に「牡丹色(ぼたん色)」があり、牡丹の花弁の色でマンセル値は3RP 5/14 近辺の鮮やかな赤紫を示し、花弁が幾重にも重なる大輪の美しい花である。

咲く時期は春から初夏であり、「牡丹」の季語は夏。「冬牡丹」は冬の季語である。

「牡丹」は、中国では薬の原料に使われ、その後、観賞用として人々に愛でられた。

日本には奈良時代末期から平安時代初期に伝わり他諸説ある。「百花の王」「富貴の花」といわれる吉祥の花の代表である。

「牡丹」は、ボタン科ボタン属の落葉低木で、「冬牡丹」は、栽培技術で温度調節をし、厳寒の中で育ち、観賞が可能。霜よけなどの藁囲い(わらがこい)も相まってとても風情がある。新年にお披露目される縁起花として観賞用で育てられている。

中国の花鳥画を日本の有名画家たちも模写をし腕を磨いた題材の一つである美しい牡丹の花である。

●上野東照宮
ぼたん苑
[2月23日まで]

(瀧川優子)



●かごんまの色® 活用事例3

◆かごしま国体・大会広報物

「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」は、2023年に開催予定のスポーツの祭典です。新型コロナウイルス感染症の影響により、開催予定だった2020年から2023年に特別国体・特別大会として延期開催することが決定され、準備が進められています。

アスリート達のパフォーマンスや県民のおもてなしによって、熱く燃えるような感動を呼び起こす国体・大会となるよう、広報活動にも力が入れられており、鹿児島市実行委員会(鹿児島市)制作による様々な広報物には、かごんまの色®も使用されました。

このうち2020年に開催された関連イベントの新聞広告や路面車内広告に、「きんこうわん色」が使用され、はつらつとした活力あふれる国体・大会を色彩で盛り上げました。

下記のURLから詳細をご覧ください。

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会：

<https://kagoshimacity-kokutai.jp/>

かごんまの色®：

<https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp/blog/article/kagonmanoiro2019/>

(牧野暁世)